

自己表現作文(1)《日本語学習》A/Bコース

自己表現作文(2)《日本の生活》Aコース

1. コースの目的

「自己表現作文」コースは、帰国者が中国や日本で体験してきた自分自身のことを日本語で表現することを目的とする。最終的には、1つのテーマの作文を完成させる

2. 学習内容

「自己表現作文(1)《日本語学習》」のAコースでは《日本語学習》という大テーマの中で「日本語学習の方法」、「日本語学習上の困難」、「中国語と日本語の比較」を小テーマとして取り上げる。Bコースでは、「日本語学習の目標」「日本語学習歴」「日本語学習の中で心に残った出来事」といった小テーマを取り上げる。「自己表現作文(2)《日本の生活》」では、「帰国の動機と経緯」「帰国直後の日本の印象」「帰国当初の生活」のテーマで作文する。3コースともモデル作文をいくつか読むことを通して、話題に合った語彙・表現を学んでいくと同時に、文章表現の基礎知識を学ぶ

3. 主な対象者

日本語レベルは、「続・入門日本語文法文型コースA」(「始めてみよう・話してみようⅢ」「受け身形、使役形、推量、敬語」)を習得した日本語力がある人。簡単な日本語の読み書きに支障のない人

4. 学習期間

12ヶ月まで(期間中に修了しなかった場合は継続申請が可能)

5. 使用教材

《日本語学習》Aコース:「自己表現日本語(1)《日本語学習》A(CD付き)」

《日本語学習》Bコース:「自己表現日本語(1)《日本語学習》B(CD付き)」

《日本の生活》Aコース:「自己表現日本語(2)《日本の生活》A(CD付き)」

6. 学習プログラムの概略

以下12ヵ月の場合だが、受講者のペースで進める。

【自己表現作文（1）《日本語学習》Aコース】

12ヶ月	学習範囲	提出物
1～2 ヶ月目	第1回送付物 ：受講案内、テキスト「自己表現日本語（1）《日本語学習》A」、課題プリント①（「日本語学習の方法」の小作文）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ1【作文のイメージを作ろう】の学習 ・ステップ2【自分のことについて書いてみよう】小テーマ「日本語学習の方法」の学習 	→★課題プリント①（「日本語学習の方法」の小作文）
3～4 ヶ月目	第2回送付物 ：課題プリント②（「日本語学習上の困難」の小作文）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ2【自分のことについて書いてみよう】小テーマ「日本語学習上の困難」の学習 	→★課題プリント②（「日本語学習上の困難」の小作文）
5～6 ヶ月目	第3回送付物 ：課題プリント③（「中国語と日本語の比較」の小作文）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ2【自分のことについて書いてみよう】小テーマ「中国語と日本語の比較」の学習 	→★課題プリント③（「中国語と日本語の比較」の小作文）
7～8 ヶ月目	第4回送付物 ：課題プリント④（《日本語学習》作文—第一稿）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ3【作文をまとめあげよう】の学習 	→★課題プリント④（《日本語学習》作文—第一稿）
9～10 ヶ月目	第5回送付物 ：課題プリント⑤（《日本語学習》作文—推敲版）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ4-1【推敲し、完成させよう】の学習 	→★課題プリント⑤（《日本語学習》作文—推敲版） ※推敲版の完成度が低い場合は、再提出用の課題をプラスする場合があります。
11～12 ヶ月目	第6回送付物 ：課題プリント⑥（《日本語学習》作文—清書版）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ4-2【推敲し、完成させよう】の学習 	→★課題プリント⑥（《日本語学習》作文—清書版）
	修了証送付	
	※ステップ5【話してみよう】については、作文完成後にスクーリングを行える場合、指導する	

【自己表現作文（1）《日本語学習》Bコース】

12ヶ月	学習範囲	提出物
1～2 ヶ月目	第1回送付物：受講案内、テキスト「自己表現日本語（1）《日本語学習》B」、課題プリント①（「日本語学習歴」の小作文）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ1【作文のイメージを作ろう】の学習 ・ステップ2【自分のことについて書いてみよう】 小テーマ「日本語学習歴」の学習 	→★課題プリント①（「日本語学習歴」の小作文）
3～4 ヶ月目	第2回送付物：課題プリント②（「日本語学習の中で心に残った出来事」の小作文）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ2【自分のことについて書いてみよう】 小テーマ「日本語学習の中で心に残った出来事」の学習 	→★課題プリント②（「日本語学習の中で心に残った出来事」の小作文）
5～6 ヶ月目	第3回送付物：課題プリント③（「日本語学習の目標」の小作文）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ2【自分のことについて書いてみよう】 小テーマ「日本語学習の目標」の学習 	→★課題プリント③（「日本語学習の目標」の小作文）
7～8 ヶ月目	第4回送付物：課題プリント④（《日本語学習》作文—第一稿）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ3【作文をまとめあげよう】の学習 	→★課題プリント④（《日本語学習》作文—第一稿）
9～10 ヶ月目	第5回送付物：課題プリント⑤（《日本語学習》作文—推敲版）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ4-1【推敲し、完成させよう】の学習 	→★課題プリント⑤（《日本語学習》作文—推敲版） ※推敲版の完成度が低い場合は、再提出用の課題をプラスする場合があります。
11～12 ヶ月目	第6回送付物：課題プリント⑥（《日本語学習》作文—清書版）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ4-2【推敲し、完成させよう】の学習 	→★課題プリント⑥（《日本語学習》作文—清書版）
	修了証送付 ※ステップ5【話してみよう】については、作文完成後にスクーリングを行える場合、指導する	

【自己表現作文（2）《日本の生活》Aコース】

12ヶ月	学習範囲	提出物
1～2 ヶ月目	第1回送付物：受講案内、テキスト「自己表現日本語（2）《日本の生活》A」、課題プリント①（「帰国の動機と経緯」の小作文）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ1【作文のイメージを作ろう】の学習 ・ステップ2【自分のことについて書いてみよう】 小テーマ「帰国の動機と経緯」の学習 	→★課題プリント①（「帰国の動機と経緯」の小作文）
3～4 ヶ月目	第2回送付物：課題プリント②（「日本語学習の中で心に残った出来事」の小作文）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ2【自分のことについて書いてみよう】 小テーマ「帰国直後の日本の印象」の学習 	→★課題プリント②（「帰国直後の日本の印象」の小作文）
5～6 ヶ月目	第3回送付物：課題プリント③（「日本語学習の目標」の小作文）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ2【自分のことについて書いてみよう】 小テーマ「帰国当初の生活」の学習 	→★課題プリント③（「帰国当初の生活」の小作文）
7～8 ヶ月目	第4回送付物：課題プリント④（《日本語学習》作文—第一稿）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ3【作文をまとめあげよう】の学習 	→★課題プリント④（《日本の生活》作文—第一稿）
9～10 ヶ月目	第5回送付物：課題プリント⑤（《日本語学習》作文—推敲版）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ4-1【推敲し、完成させよう】の学習 	→★課題プリント⑤（《日本の生活》作文—推敲版） ※推敲版の完成度が低い場合は、再提出用の課題をプラスする場合があります。
11～12 ヶ月目	第6回送付物：課題プリント⑥（《日本語学習》作文—清書版）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ4-2【推敲し、完成させよう】の学習 	→★課題プリント⑥（《日本の生活》作文—清書版）
	修了証送付 ※ステップ5【話してみよう】については、作文完成後にスクーリングを行える場合、指導する	

参考：受講者向けの「受講案内」に書かれている「学習の進め方と注意点」

- ① 課題は教材にある学習内容をしっかりと自分で学習したあとに記入するもので、教材の学習内容を十分に勉強する前に課題のみを先に提出してしまわないようにしましょう。
- ② ステップ3、ステップ4でのセンターとのやりとりは、作文の仕上がり具合によりやりとりの回数が増えたり、減ったりする場合があります。
- ③ 作文は、自分の日本語力を大幅に超えた内容・表現にならないようにしてください。教材の中のモデル作文や語彙・表現を参考にしながら、自分の日本語力で無理のない範囲で書いてみましょう。また、中国語だけしか書いていない作文は、受け付けません。
- ④ 提出する作文は課題用紙の量を大きく超えない分量にしましょう。
- ⑤ 学習テーマと関係のないテーマでの作文は書かないようにしてください。学習テーマと無関係なものは添削対象にはなりません。
- ⑥ 提出用「課題プリント」の作文（日文・中文）は、あまり崩しすぎた字ではなく、判読可能な字で書くようにお願いします。

7. このコースのスクーリングの目的

- ・本コースではどのような段階を踏んで作文を作り上げていくのかを、教材の構成を確認しながら受講者に理解してもらう。
- ・教材の中のモデル作文や文型練習から、自分が書きたいことと共通する部分、参考にできる部分を探す手助けをする。
- ・ステップ2の「作文練習—質問に答えよう—」のQA方式の部分で、自分自身の答えを日本語で作りに上げていくときの手助けをする。
- ・全体の構成が読み手に伝わりにくい場合や、語彙表現の不適切さが目立つ場合はアドバイスをする。
- ・スピーチ練習を行う。聞き手に伝わる発音指導を行う。そして、自分が書いた作文を講師に聞いてもらうことによって、自分の言いたいことが日本語で表現できたことの達成感を持ってもらう。

8. このコースのスクーリングの留意点

- ・受講者の日本語力を大きく超えた表現にさせない。自分の日本語力+ α 程度での語彙表現を使った言い回しをアドバイスする。
- ・受講者の作文は中国語の影響を受け、漢語や故事成語が多くなる傾向にあるので、聞く人がわかるようなわかりやすい和語に変えたり、故事成語、四字熟語なども日本で一般的でないものについては、説明を加えるなどをアドバイスする。
- ・受講者が伝えたいこと、表現したいことが漠然としている場合は、講師からテーマに関する質問をしながら、受講者の内側にあるものを引き出すようにする。講師はあくまでも聞き手に徹し、講師の意見や感想の押しつけにならないよう注意する。
- ・内容について、講師は操作しすぎないこと。ただし、文化的な違いによる表現から不自然さや違和感を受ける表現などがある場合は、その旨を伝え、最終的な判断は受講者に委ねる。
- ・受講者の中には表現したいテーマを他に持っている場合もあるが、今回はコースのテーマに沿うということで、大きなテーマの逸脱がないように誘導する。
- ・「帰国者」という背景、体験から、受講者は複雑な思いを抱え続けてきており、自己表現したいという潜在的な欲求は強いと思われる。講師は、受容的態度で受講者の自己表現を受け止め、書きたい内容の掘り起こしやまとめに協力しながら、作文を仕上げる過程に伴走する。
- ・スピーチ練習の時、世代や学習者のタイプによってはあまり正確な発音を求めすぎないように注意し、口頭でコミュニケーションしようとする意欲を喪失させないように配慮する。

9. スクーリングの流れと活動例(およそ2時間を想定し、以下の活動例から取捨選択する)

①オリエンテーション(初回のみ): 活動内容や頻度の説明、受講生が複数の場合は自己紹介など

②直接指導

a. 学習相談-1

- ・(初回のみ) テキストの構成、使い方、課題提出について等、コースプログラムに関することを確認、音声教材の活用法について指導
- ・現在の学習進度などの状況把握

b. 課題添削終了者には添削課題を持参してもらい、結果へのアドバイスを行う

→結果の評価(努力の成果を認める方向で)や間違った箇所の確認、訂正の手助け、課題未提出の場合、学習した範囲の理解や練習箇所のチェックを行う

c. モデル作文の内容について、理解を確認したり感想を聞いたりする

d. 「文型練習」のチェックをし、文法の間違いなどを解説、訂正してもらう

e. ステップ2各小テーマの「作文練習—質問に答えよう—」にあるA~Dさんの回答をまず自力で考えさせ、わからない場合はモデル作文から該当部分を抜き出させる。自分自身の回答について

スムーズに出てこない場合は、講師とやりとりしながら、内容や日本語表現を仕上げていく

f. 学習内容に関する質問受け

g. 学習相談－2

- ・学習方法アドバイス
- ・学習のペースや学習量の相談
- ・今後の学習計画について話し合い
- ・次回までの目標設定

③間接指導（自習）の例

以下は、講師が他の受講者に対応している間に受講者が行う課題の例

a. 受講者の持っている教材、課題を使って作成する自習課題

- ・「単語」や「文型」から単語カードを作る
- ・「文型表現練習」でできなかったところをノートに整理する
- ・「文型表現練習」の解答の中文から日本語文を作る練習をする
- ・自分の作文に使えるような語彙・表現を教科書の中から抜き出してノート等にまとめる
- ・音声教材を使って：テキストを見ないで意味をとる、テキストを見ながら音読練習
- ・受講者がまとめた文章の推敲作業（講師は推敲部分の指摘を行っておく）
- ・自分の作文の音読練習

b. 講師がテキストの内容から作る自習課題

- ・最低限知っておいた方がよい「単語」や「表現」からチェック問題を作る
- ・「文型表現練習」から抜粋した代入練習を作る
- ・「文型表現練習」の解答の中文を抜き出し、中文和訳問題を作る

10. スクーリング実施状況報告から 活動事例など

●作文作りのステップを理解する

- ・やり方がよくわからないと言っていたので、テキストを見ながら学習方法、教材の構成を説明した。そして、Aさん、Bさん作文を読み、課題の紙を使って解答の方法に慣れてもらう。最後に自分の答えを口頭で言うってもらう。
- ・作文課題を提出することに意識が行きがちなので、一つ一つのステップを踏んでいくことが大きな作文を仕上げる上でよい方法であることを話した。

●コースの目標を立てる

- ・学習の目標について話し合い、表現上の間違いや癖などに注意を払いながら、テーマに沿った内容の構成や表現を考えて作文を書くことを目標にした。

●音読練習をした

- ・本人の希望で、モデル作文の読みの練習をした。

●返却された添削課題の復習をした

- ・返却された作文が漢語の使いすぎで中国語的な構文になってしまっていたので、同じ内容でも和語を使えば日本語文法の初級文法による文型が生かせることを実際にやってみた。
- ・カタカナ、平仮名の表記の簡単な間違いから、助詞や接続詞の使い方、動詞や形容詞の活用などの文法上の間違い、文体の不統一まで様々な表現上の問題が現れていた。自分の考えをしっかりと持っている人なので、表現上の問題が改善されれば、内容豊かな作文を書くことと思われる。

- ・返却されてきたものを見ると、ほとんどがモデル作文からの引き写しなので、自分の文、自分にしか書けない文を書くようにアドバイス。

●作文の内容を一緒に考える

- ・ABCさんの作文の内容を簡単に説明してもらい、その後自分のことで「心に残った出来事」を尋ねたが、何も思い浮かばないという。少し話をして引き出そうとしたが、ゆっくり考えたいとのことでそこまでとなった。
- ・次回提出する「日本語学習の目標」のポイントについて話し合った。
- ・受講者は前回自分で選んだ小テーマ「目標」について四つの質問の答えを書いていたが、今回はそのまとめの作文を書いてきた。作文と一緒に読みながら、どんな気持ちで書いたのか、何を言いたいのかなど、内容について話し合った。口頭による指導だけで、受講者の作文にはチェックは入れなかった。

◆◆*◆資料◆*◆*◆*

1. テキスト「自己表現日本語（1）《日本語学習》A」抜粋（資料①）
2. 提出課題 添削例（資料②）

B的文章



わたしはできるだけ日本語で書かれた本を読みます。絵本や子どもの本、会話

の多い小説等の他に、中国に関する本をよく読みます。それは、内容に興

味があるというだけではなく、中国のことなら、少しぐらい知らない日本語

があっても前後の関係から大体意味がわかるからです。新しい単語や表

現も、大体の内容がわかっている筋のある文章の中に出

てくるとよく覚えられます。



単語: 絵本 (图画书) 会話 (会话; 对话) 小説 (小说) 興味がある (有兴趣)

前後の関係 (前后的关系) 大体 (基本上、大致) 意味 (意思)

単語 (单词) 表現 (表达、表现) 筋 (情节; 条理)

覚えられる (能记住; 学会、掌握)

表达方式: 日本語で書かれた本 (用日语写的书) 中国に関する本 (关于中国的书)

句型: できるだけ~する (尽量 / 尽可能做……)

译文:

我尽量看用日语写的书。除了图画书、儿童书和对话较多的小说之外，还经常读关于中国的书。那不仅仅是因为对内容感兴趣，而且还因为如果是中国的事情，即使多少有点儿不懂的日语，也可以从前后关系上大致了解其意思。即便就是新词语或新的表达方式，如果出现在有情节并且对其大概内容有所了解的文章中的话，也比较容易记住和学会。

★句型表达练习★

以下的1-5的句型是A、B、C的文章中出现过的句型，是与“日语学习方法”有关的基本表达方式。为了在自己的作文中能使用这些句型，让我们来练习吧！模仿例句，用日语造句，然后考虑一下它的中文意思。

1. できるだけ～（する）

（尽可能 / 尽量……（做））

例) ^{にほんご}で^か書かれた^{ほん}本を^よ読む（看用日语写的书）

→ 私はできるだけ日本語で書かれた本を読みます。

（我尽量看用日语写的书。）

① ^{じしょ}辞書をひく（查字典 / 词典 / 辞典）

→ _____

② ^{シーディー}CDを^き聞く（听CD）

→ _____

③ ^{ぶんけい}句型を^{あんき}暗記する（背句型）

→ _____

★作文练习 一回答问题一★

在《作文练习 一回答问题一》中，一边回答关于“日语学习方法”的几个问题，一边去写作文的各个部分，同时去找自己可以利用的词汇与表达方式。

《作文练习 一回答问题一》的练习方法：

“日语学习方法”也是因各个人的情况和想写的事情而有所不同。在这里，我们考虑5个人的情况去进行练习。这5个人是指写前面范文的A、B、C，还有首次出现的D，最后是您自己。A-D的回答中或许存在对您的作文有帮助的表达方式。即使和自己的情况不同，出现的词汇、表达方式和措辞都是日常生活中常用的，所以各位也会学到很多东西。

在A的回答例文中有中日文的记述，而B、C、D只有中文记述，所以首先自己要考虑一下如何用日语表达。不会时，请再返回来参考各自的范文。

最后用中文整理、总结自己的回答，再用日语写。参照以上的范文和以下的《参考词汇·表达方式》，写一下D和您自己的回答。

接下来，让我们一边参考下列的词汇，一边回答下一页的问题①②。

《参考词汇·表达方式》

* 名词 *	本（书） テキスト（教科书） 辞書（词典、辞典） 電子辞書（电子辞典） 単語カード（单词卡片） テープ（磁带） CD（CD、激光唱片） ビデオ（录像带） DVD（DVD、激光视盘、影碟） テレビ（电视） 映画（电影） ドラマ（电视剧、戏剧、剧本） アニメ（动画） ニュース（新闻） 歌（歌曲） カラオケ（卡拉OK） 漫画（漫画） パソコン（个人电脑）
--------	--

(中略)

问题①：您现在如何学习日语？（以前是怎么学习的？）

A 的 回 答	中 文	我平时坚持“反复”和“实际应用”来学习（日语）。
	日 文	わたしは「繰り返し」と「実際に使ってみる」ということを心がけて学習しています。

B 的 回 答	中 文	我尽量看用日语写的书。
	日 文	

C 的 回 答	中 文	与一起打工的人互通手机邮件而学会了日语。
	日 文	

D 的 回 答	中 文	在志愿者办的日语班里，与各个国家的人一起在学习。
	日 文	

您 的 回 答	中 文	
	日 文	●学习远程课程的人，请把答案写在附页的课题纸张上。●

★整理自己的作文—交作业★

模仿D整理文章的做法，把作文练习①—④您自己的回答连接起来，认为有表达不充分的地方，就增添内容。为使整篇文章自然流畅，同时也要注意上下文的衔接。

作业就是整理文章。整理出来的作文不要马上就写在作业纸上，最好先写到笔记本或其它别的纸上。一边留意文章的整体流畅感，一边进行修改、推敲，最后把整理好的作文誊写到这一页反面的“课题用纸”上，提交给中心。老师批改后，再返回给各位。

※ 使用“课题用纸”时的注意事项：

请把自己的文章写在白格里，涂黑的部分空出来，供老师写批语，然后请在正文下面加上中文翻译。

●学习远程课程的人，请把答案写在附页的课题纸张上。●

日语：

●学习远程课程的人，请把答案写在附页的课题纸张上。●

(中略)

中文：

※ 请把这张纸交回中心。

